

製品名: Cbl ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08038**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	CBL
別名	CBL; CBL2; RNF55; E3 ubiquitin-protein ligase CBL; Casitas B-lineage lymphoma proto-oncogene; Proto-oncogene c-Cbl; RING finger protein 55; Signal transduction protein CBL
遺伝子 ID	867.0
SwissProt ID	P22681
免疫原	抗血清はヒト CBL 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 740-789

背景

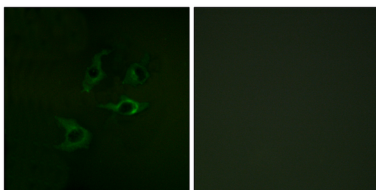
Cbl プロトオンコ遺伝子(CBL) ホモサピエンス この遺伝子は、RING フィンガー E3 ユビキチンリガーゼをコードするプロトオンコ遺

伝子です。コードされているタンパク質は、プロテアソームによる分解のために基質を標的とするために必要な酵素の1つです。このタンパク質は、ユビキチン結合酵素(E2)から特定の基質へのユビキチンの転移を仲介します。このタンパク質は、N末端ホスホチロシン結合ドメインも含み、多数のチロシンリン酸化基質と相互作用し、プロテアソームによる分解の標的とすることができます。そのため、多くのシグナル伝達経路の負の調節因子として機能します。この遺伝子は、急性骨髄性白血病を含む多くの癌で変異または転座していることが判明しており、5' UTRのCGGリピートの拡大はヤコブセン症候群に関連しています。この遺伝子の変異は、ヌーナン症候群様疾患の原因でもあります。[RefSeq提供、2016年7月],疾患: RTKのダウンレギュレーション能力を阻害する欠失または変異によって、発がん性タンパク質に変換される可能性があります。ドメイン: N末端は、リン酸化チロシン結合 (PTB) ドメイン、短いリンカー領域、およびRING型ジンクフィンガーで構成されています。PTBドメインはTKB (チロシンキナーゼ結合) ドメインとも呼ばれ、4ヘリックスバンドル (4H)、カルシウム結合EFハンド、および分岐SH2ドメインの3つの異なるサブドメインで構成されています。ドメイン: RING型ジンクフィンガードメインは、E2ユビキチン結合酵素への結合を媒介します。機能: 造血細胞におけるシグナル伝達に関与します。細胞表面の受容体から始まる多くのシグナル伝達経路の負の調節因子として機能するアダプタータンパク質です。E3ユビキチン-タンパク質リガーゼとして作用し、特定のE2ユビキチン結合酵素からユビキチンを受け取り、基質に転移させてプロテアソームによる分解を促進します。PDGFA、EGF、CSF1などの活性化受容体チロシンキナーゼを認識し、シグナル伝達を終結させます。その他: このタンパク質は、機能的なカルシウム結合部位を1つ有します。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。PTM: EGFR、SYK、FYN、ZAP70によってチロシン残基がリン酸化されます (類似性による)。INSRによってチロシン残基がリン酸化される。類似性: CBL N末端ドメインを1つ含む。類似性: RING型ジンクフィンガーを1つ含む。類似性: SH2ドメインを1つ含む。類似性: UBAドメインを1つ含む。類似性: EFハンド様ドメインを2つ含む。サブユニット: SH3ドメインを介してNCKと結合する。リン酸化C末端は、2番目のSH3ドメインを介してCD2APと相互作用する。UBE2L3に結合し、アダプターSLA、SLA2、およびSH2B2のリン酸化C末端と相互作用する。高度に保存されたCbl-N領域を介してEGFR、SYK、ZAP70と相互作用する。また、SORBS1およびINPPL1/SHIP2とも相互作用する。リン酸化LAT2と相互作用する。CBLBと相互作用する可能性がある。

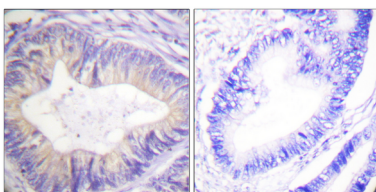
研究分野

ErbB_HER;ユビキチン媒介タンパク質分解;エンドサイトーシス;Jak_STAT;T細胞受容体;インスリン受容体;がんにおける経路;慢性骨髄性白血病;

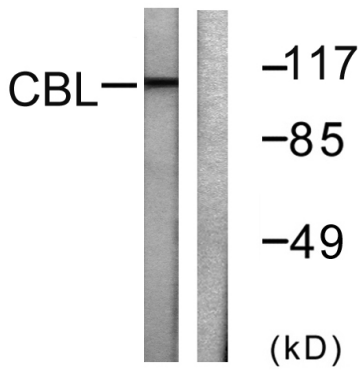
画像データ



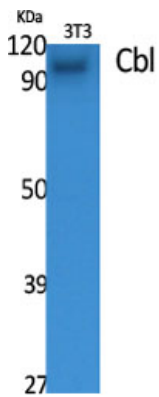
CBL抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



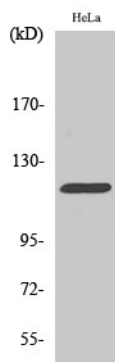
CBL抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



CBL 抗体を用いた、EGF 200 ng/ml 30 μ l 処理した HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



Cbl ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



Cbl ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析